



仏教壮年会連盟講師として、初めて中央研修会「講義」を担当

あなたのいのちをいただきます

仏教壮年会連盟講師

新潟教区 巻組 万栄寺

丸山 文雄

東北教区常例布教のご縁を頂戴し、車で巡回をさせて頂いた折、時間に余裕があり、山形県上山市にある斎藤茂吉記念館に参りました。その作品の膨大な数と、資料の綿密さに驚かされ鑑賞して参りました。

茂吉は文化勲章を授与された一流歌人であり、精神科医で院長も務められた方で、鰻が好物でした。戦時中故郷山形へ疎開していた頃、嫌な講演の依頼を断り続けていましたが、鰻が提供されると

朋友

ほう
ゆう

第20号

2018 (平成30) 年
3月30日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 宮南 靖

「朋友」とは、同信のなから。2008 (平成20) 年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏教士が力を合わせ、ともに歩を進めていこうという願いから名づけられました。

聞き、前言を翻し、そそくさと会場に向かう事が常であったそうです。鰻を食べると医者なのに「樹木の緑が色濃く鮮やかに見える」と、およそ非科学的な事もよく言っていたそうです。

長男の茂太の著書には、「父は鰻に『コレコレ』と目を細くした。」と出て来ます。

茂吉は一生の間にどれぐらい鰻を食べたか日記や歌から調べ上げた弟子がいたほどの鰻好きな人でした。

これまでに吾に食われし鰻らは

仏となりて かがよふらむか

※かがよふ(耀よう)

↓キラキラと光輝く、

見え隠れする

私に今までに食べられた鰻らは、お浄土に生まれ、仏様のよう光輝いておられるであろうか。という意味でしょうか。

仏教は戒律の中で一番に不殺生戒があります。殺すなかと説いておられます。しかしながら私達は1日3回の食事でどれくらいいのちを奪って来たでしょうか。牛や豚や魚や野菜の生命を奪い、その犠牲の上にわが命を繋いで来ました。あなたの命を頂戴しなければ私の生命は有りません。「申し訳ありませんが、あなたの命を戴かせて下さい。」と頭が下がり、手が合さり、お念仏が食べる口と同じ口よりほとぼしり出て下さる。「まかせよ救う」の喚び声が、喚び続けて下さる仏様からのメッセージです。「我が生命、我が生命にあらず」他の生命の犠牲の上と、大いなる命の支え、育みにより生かされている我が生命であったと気付かせて頂き、「食事のこぼし」を唱和したいと思います。

合 掌

*丸山先生は2017年度から連盟講師にご就任頂きました。

2017(平成29)年度

仏教壮年会連盟「中央研修会」開催報告

仏教壮年会連盟理事(備後教区)

研修委員会副委員長 甲田 正規



2018(平成30)年2月17日(土)18日(日)本願寺伝道院にて仏教壮年会連盟「中央研修会」が開催されました。全国26教区から45名の参加をいただき、講師・連盟理事・研修委員等を含め総勢65名が真摯に熱い思いを二日間語り合い、学び合いました。

1日目、開会式では仏教壮年会連盟副会長阿部慶一総務にご出席を賜り、お言葉をいただきました。その後、記念撮影の後、平澤茂則研修委員長よりこの度の「研修会のねらい」について話がありました。引き続いて谷間徹誠連盟講師より「浄土真宗のみ教え」と題してご法話をいただきました。「欲深き人の心と降る雪は積もるにつけて道を忘るる」と自作の句を紹介され、聴聞の継続の大切さについてお話をいただきました。



法話を担当された谷間徹誠講師

続いて丸山文雄連盟講師より「今、仏教壮年会に求められるもの」と題して講義をいただきました。

- ① 本願他力の教え
- ② 悪人救済の教え
- ③ 往生成仏の教え

のお話があり、救いようのない私を、「まかせろ必ず救う仏に成らす」という阿弥陀様の本願におまかせし、私たちは今この限られたいのちのなかで一人ひとりが今できることをやっていく、あなたは今何がしたいのか？何を求めるのか？と問題提起



真面目な話し合いの中にも笑顔が

がありました。

その後、8班に分かれ連盟研修委員を座長に「話し合い法座」に移り提起されたテーマを中心に活発な意見が交わされ班別代表者による発表へと続きました。

午後7時半から、夕食懇親会が間法会館であり、研修委員が各地より持参した地酒を酌み交わしながら、笑顔で意見交換がなされ、日頃から活発に活動されている様子がうかがえ、たいへん意義深い懇親会となりました。

2日目は、帰敬式を受けられた方にあらためて法名をお渡しすると



班別代表者の発表



パネルディスカッション

もに、義本弘導連盟講師より「法名の意義」と題して「法名は死んでからの名ではない。阿弥陀如来の真実とともに生き、仏法を聞くようになったという名のりである」というお話をいただきました。

続いてパネルディスカッション、全体会があり、宮南靖理事長が座長を務め、谷間講師に補佐役として加わっていただきました。

①「私のご縁の経験を伝えていく」

②「仏壮活動がうまくいっている事例、感動した経験」

③「若者との縁のつなげ方」

といったテーマでパネルディスカッションがくりひろげられました。

まとめとして丸山講師より「われわれは、おみりの香を受け継いでいる。このご縁にであえた私のよこびを次に引き渡していくことが大切であり使命である」と結んでいただきました。

閉会式では、これからの仏教壮年会活動の推進者となられる受講者の皆様に受講の証として仏教壮年会連盟オリジナルの「ネクタイピン」を贈呈させていただきました。

最後に参加者全員で恩徳讃を唱和し、2日間の研修が無事終了しました。



受講の証 ネクタイピン

参加者の声

〈本研修会を通しての感想〉

◆今回、参加させていただき、壮年会の取り組みを強化する糸口を大いに発見させていただきました。

◆参考になる事や同意出来る事を少しずつ実行に移して行きたいと思う。

◆初めて参加させていただき、どのようなことをするのか期待と不安が入りまじっていましたが、終えてみて大変満足しました。全国に多くの仲間がいることを実感しました。

◆大変、有意義な時間だったので、機会があれば、また参加したいです。

◆今後も、多くの研修を受けたい。他教区の人との交流が大変参考になりました。

◆お寺に足を運ぶきっかけは普段からいろいろあって、次世代に引き継いで行くことに対する思いは深まりました。

◆仏教壮年会の活動についての知識や経験もない私にとって本研修会の参加は、思いもかけないことでした。初心者ですが、研修を終えることができたのも、多くの方々の温かい御配慮に支えられたからだと思います。

本研修会を通して一人ひとりが課題と向き合い、各教区の朋友と今後の仏教壮年会活動に対して前向きな意見交換することが出来たようです。

被災地はいま、熊本

「あの日から2年の今」

熊本教区益北組仏教壮年会会長

荒平 儀三郎



熊本地震が起きたあの日からまもなく2年を経過しようとしています。当時、多くの県民は「熊本では大地震が起こることは考えられない」と思っていたそうです。地震保険加入率も熊本では25%と低かったそうです。報道によると4月14日午後9時26分、益城町でM6.5の地震は前震、16日午前1時25分M7.3の地震が本震だったと後になって知らされました。

お世話になっている光輪寺では、門信徒の約80%方半壊以上の被害を受け、今も仮設住宅等で生活する事を余儀なくされている方も多数いらっしゃいます。

本堂再建に向けて試行錯誤している所がありますが、我々門信徒としても高齢者が多く、なんとしても早い時期に本堂再建の目処を付ける事を念願しています。4月14日の前震から本堂が倒壊するまでの間、お寺においてはどのような状況だったの



地震直後の光輪寺

か、私の想像以上の出来事だったと思います。御本尊を初めとする莫大な仏具等の搬出には、的確な判断と行動が必要であったと思われます。現場で活躍された方々に何うと、4月15日には地域の方や、住職がPTA会長と云うこともあり学校の教職

員の方、宗派を超えた僧侶の方、大學生、中学生と多くの人がかけつけ、仏具屋さんの専門的な指導も有り、余震が続く恐怖にさらされながら、本震前に本堂内の重要な仏具等を搬出する事が出来たと云う事です。

また、本堂の解体にあたつては、前記の方々の他、本山からもボランティアとして何日も御苦労いただきました事は、感謝の一言であります。本震後は保育園が地域の方々の避難所となり、最大70名の人がお互い協力しながら震災を乗り越えた事も決して忘れてはならないことです。

光輪寺の門信徒としてお寺に感謝している事は、毎月8日の定例、春秋の彼岸法要、御正忌報恩講は震災後も途絶える事なく続けていただいております。本堂倒壊後は、保育園の広間で、庫裡の補修が完成した後は庫裡で、門信徒が一堂に集いご講師による浄土真宗のみ教えを聞かせていただく環境にある事で、幸せと最大の喜びを感じている所であります。

この2年間、益北組は組長をはじめ倒壊したあの日を取り戻すため、一歩また一歩と前進いたしております。皆さまの物心両面にわたる御支援に深謝いたしますと共に、今後共変わらぬ御支援をお願いいたします。

◆本年度新規単位登録名簿

教区	組名	寺院	単位会名
北海道	札幌	福住寺	福住寺仏教壮年会
大阪	島下	大光寺	大光寺仏教壮年会

登録単位数 2552単位

仏壮バッジ

- 価格 2,000 円(税込)
 - 本仏教壮年会連盟事務局にて販売
 - 委託販売可能
- ※教区教務所を通し、当連盟へ申請



仏教壮年会連盟 会員式章

- 価格 3,086 円(税込)
 - 本願寺出版社にて販売
 - 委託販売可能
- ※教区教務所を通し、本願寺出版社へ申請

